



インタビュー

メイクアップ・アーティスト「美容界のカリスマ」

イッコー

# IKK O さん

「参考にならないかもしれないけど、ここを離れてからの25年間を故郷の子どもたちに伝えようと思っ...」

「不動の地位を築き、最近ではテレビ番組にも多数出演するIKK Oさん。明日は雑誌の取材、あさつてはテレビの撮影という多忙なスケジュールの合間を縫って福智町に帰ってきた。11月2日、PTAからの依頼を受け、方城地区の小中学生487人を前に講演。『美しさは環境にはぐくまれる』「外見だけ...」



「5年間辞めずに必ず辛抱できますか。覚悟があるなら紹介します。」  
IKK Oさんはその言葉にうなずき、推薦状とトランクひとつを手に入京した。当時19歳、春の出来事だった。「敵しい」というよりね、カルチャーショックだった。くやしくて、情けない、泣かない日はなかったわ。」  
美容院の先生の所で、たくさんの弟子たちとの住み込み生活が始まった。

くやしくて、情けなくて泣かない日はなかった

福智町伊方で生まれ育ったIKK Oさん。幼いころから母が経営する美容院をのぞいていた。ここが自分にとって一番居心地のいい場所。美容に興味を抱いた原点だった。

高校時代は美容院でアルバイト、卒業してから専門学校に通った。「一流になりたい。コンテストで世界一になりたい」そのために選んだ道が、日本一の美容院での修行だった。

「5年間辞めずに必ず辛抱できますか。覚悟があるなら紹介します。」

「夢は努力次第で80%かなう」など、たくさんの思いを伝えた。

ミリ単位で仕上げる  
妥協なき美の追求と前進

成功を収めてもお挑戦を続けるIKK Oさん。しかし本業のメイクになると「美の探求者」の視線に変わる。「モデルの脇で完べきなメイクをし

夕食の時間、なぜかIKK Oさんの前には何も用意されない。それは「稼いでもないのに食べる資格はない」という無言のメッセージだった。「はじめは自分の居場所がなかった。1円でも稼ぐことの大切さ、社会の厳しさを痛感しました」とIKK Oさんは振り返る。自分では「鈍い」という意識はなかった。しかし東京では、ものすごい早さで時が流れていた。



1夜は地域交流センターで保護者向けに講演

てもカメラモニターで確認すると「チークがあと2ミリ足りなかった。なんてことが分かるの。メイクの仕事をした後、わたしは必ず反省を入れる。立ち止まるのは絶対にイヤだし、妥協はしない。常に前進したい。」  
「仕事はやさしただけではできない」と語るIKK Oさん。日々流行が変わる美容界で、髪の本一本、肌のきめ一つひとつを愛し、神経を集中させる。個々の持ち味を存分に引き出しながら、ミリ単位で完べきなメイクを施し

「オマエはトロイ」「使えない」「何もできない」。先輩から矢のような指摘が突き刺さった。「だれにも負けない技術を身につける」悔しさをバネにIKK Oさんがそう決意するまで時間はかからなかった。一流は周りが決めることを身をもって学んだ。IKK Oさんはその後、約束の5年を過ぎ、結局8年間在席。日本を代表する美容院でトップの腕を振るうまでになった。やがて「わたしのメイクやアップを全国の人に見せたい、見て欲しい」との思いから30歳で独立。アトリエIKK Oを設立した。呼び名を「「幸」」から「IKK O」へと変え、30代の10年間は主に雑誌で活躍。「婦人画報」「ヴァンサンカン」など数え上げたらきりがない数の雑誌でメイクを担当した。

他を圧倒した独自の「IKK Oメイクアップ」

IKK Oさんが売れっ子になったのは、その人柄やキャラクターだけではない。陶器のようなつやとピロロドのような手触り、弾力と瑞々しさを併せ持つ「ビーチスキン」のメイクが実現できたこと、そしてだれにもまねできない独自のアップができたからである。業界では「奇跡の美容家」とも言われ、感性と技術で他を圧倒した。

高級ブランド雑誌のトップモデルたちのメイクも数多く手がけ、美容家として実力と知名度を誇り「女優メイク



→達筆なIKK Oさん、色紙には瞬間の感情を書き留める。

前だけを向いて走ってきた25年、  
東京でわたしの心をなぐさめる  
故郷はかけがえのない存在です。



profile IKK Oさん (イッコー/豊田一幸:とよだ・かずゆき)

▶北九州美容専門学校卒業後、高級美容院「髪結処サワイイ」で潘飯廣英氏に師事。後にヘアメークアーティストを目指して独立「アトリエIKK O」を設立する。以後、雑誌、書籍、TV、CM、舞台、広告などで活躍「女優メイク」といってIKK Oの異名は有名。陶器のツヤとピロロドのようなテクスチャーを併せ持つ「ビーチスキン」のエキスパート。昭和37年1月20日生まれ、福智町伊方出身、東京都在住。

福智の秀麗な風景を胸に  
感性と自分を磨く

今までの成功の影には自分のコンプレックスが原動力になっているというIKK Oさん。最近のテレビ番組では苦手な歌にも挑戦した。講演会場では故郷の子どもたちに、逃げずに、挑むことの大切さを歌う姿を示した。

「がんばれば、がんばるほど、故郷は心のすき間を埋めてくれる。この年になってやっと望郷の念に気づきました。福智山の姿は今、あなたたちにとって当たり前かもしれない。でも、離れてみて、この風土があったからこそ感性を養えた事に気づくの。みんなもこの秀麗な景色を心に焼き付けて、自分を磨いてください」そうメッセージを残して、子どもたちに手を振った。